

聖書の中で「神殿」といえば、エルサレム神殿を指すのが一般的です。最初に神殿を建てたのはソロモン王ですが、その神殿は前587年にユダの滅亡とともに崩壊しました。その後、前515年にバビロン捕囚からエルサレムに戻って来たユダヤ人によって、いわゆる「第二神殿」が建てられます。しかしこれも前63年に壊されます。

イエス様の時代にあったエルサレム神殿は、前20年から建設が始められたヘロデ大王によるもので、後64年に完成しました。しかし第一次ユダヤ戦争が起こり、この神殿も壊されてなくなってしまいます。

ユダヤ教にとって、神殿はとても大切なものでした。神殿は神さまと人間の領域の境界にあると考えられ、定期的に礼拝をし、犠牲を献げてきました。ユダヤの三大祭(過越祭、七週祭、仮庵祭)にはユダヤの成人男性はエルサレム神殿に行くことを義務付けられていました。また旧約聖書には、どのようなときにはどのような犠牲を献げるべきか、細かく規定されていました。

新約聖書を読むと、イエス様は神殿のあり方を批判しているように見ることができます。神殿の境内に入り、そこで売り買いをしていた人々を追いつし、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けを倒されたこともありました。また神殿の崩壊を予告している箇所もあります。

イエス様が十字架上で息を引き取られたとき、神殿の垂れ幕が真っ二つに裂けました。この出来事によって、わたしたちと神さまの間にあった隔ては取り除かれました。そのことによって、わたしたちは直接神さまと出会うことができるようになりました。

わたしたちの教会は、神殿ではありません。神殿がなくても、神さまはわたしたちに手を差し伸べてくださるのです。

次回は「真理」です。お楽しみに。



「エルサレム神殿の模型」

イスラエル博物館

ある人たちが、神殿が見事な石と奉納物で飾られていることを話していると、イエスは言われた。「あなたがたはこれらの物に見とれているが、一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る。」

(ルカによる福音書 21 章 5～6 節)

